



症状チェックリストと対処の基本



重症度

軽症

中等症

重症

皮膚

- 部分的な赤み、ぼつぼつ
- 軽いかゆみ
- くちびる
- まぶたのはれ

- 全身性の赤み、ぼつぼつ
- 強いかゆみ
- 顔全体の腫れ



消化器

- 口やのどのかゆみ・違和感
- 弱い腹痛
- 吐き気
- 嘔吐・下痢(1回)

- 口やのどの痛み
- 強い腹痛
- 嘔吐・下痢(2回)



- 持続するつよい(我慢できない)おなかの痛み
- 繰り返し吐き続ける

呼吸器

- 鼻水、くしゃみ



- 咳が出る(2回以上)



- のどや胸が締め付けられる
- 声がかすれる
- 犬がほえるような咳
- 持続する強い咳込み
- ゼーゼーする呼吸
- 息がしにくい



全身

- 顔色が悪い



- 唇や爪が青白い
- 脈触れにくい・不規則
- 意識がもうろうとしている
- ぐったりしている
- 尿、便を漏らす



上記の1つでもあてはまる

上記の1つでもあてはまる

上記の1つでもあてはまる

エピペン



- エピペン準備

- 治療後も咳が続く
- 重症と迷う時はエピペンを使用

- すぐにエピペンを使用



薬



- 30分続けば薬を飲ませる

- 薬を飲ませる
- 呼吸器の症状があれば気管支拡張薬を吸入する(処方がある場合)

受診対応

- 5分ごとに症状を観察
- 1時間続けば医療機関を受診

- すみやかに医療機関を受診
- 救急車の要請も考慮
- 5分ごとに症状を観察

- あおむけの姿勢にし、足を20~30センチ上げる
- その場で安静を保つ(立たせたり、歩かせたりしない)
- ただちに救急車で医療機関へ搬送

エピペン®の使い方



① ケースから取り出す

ケースのカバーキャップを開け
エピペン®を取り出す



② しっかり握る

オレンジ色の部分を
下に向け、利き手で持つ
“グー”で握る！



③ 安全キャップを外す

青い安全キャップを外す



④ 太ももに注射する

太ももの外側に、エピペン®
の先端(オレンジ色の部分)を
皮膚に直角にあて、“カチツ”
と音がするまで強く押しつけ
そのまま5つ数えた後抜く



注射した後すぐ抜かず5つ数える！



⑤ 確認する

エピペン®を太ももから離し
オレンジ色の部分が
伸びているか確認する
伸びていない場合は「④に戻る」

使用前 使用後



⑥ マッサージする

打った部位を10秒間、
マッサージする

介助者がいる場合

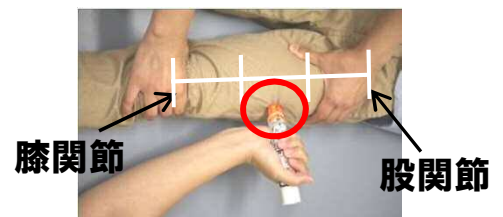


- 介助者は、子どもの太ももの付け根と膝をしっかりとおさえ、動かないように固定する

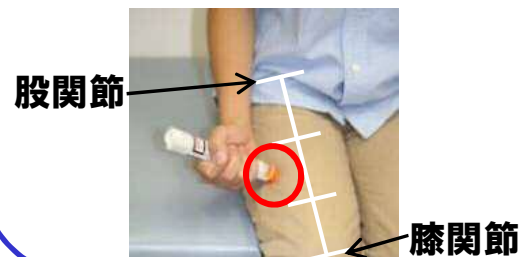
注射する部位

- 衣類の上から、打つことができる
- 太ももの付け根と膝の中央部で、かつ真ん中よりやや外側に注射する

仰向けの場合



座位の場合



注意点: このシートはアレルギー症状とその対応について基本的な理解を助けるためのものです。個々に症状の経過は異なるため、適切な判断を加えて参考にしてください。

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
小児急性疾患学講座